



## Kobe University Repository : Kernel

Title	植民地朝鮮と多木久米次郎：朝鮮における事業基盤と参政権問題 (<特集>国際学会「東アジア海港都市の共生論理と文化交流」)
Author(s)	金, 玄
Citation	海港都市研究, 4: 77-95
Issue date	2009-03
Resource Type	Departmental Bulletin Paper / 紀要論文
Resource Version	publisher
URL	<a href="http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81000953">http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81000953</a>

Create Date: 2012-05-08



## 植民地朝鮮と多木久米次郎

——朝鮮における事業基盤と参政権問題——

金 玄  
(KIM Hyun)

### はじめに

本稿は、戦前帝国議会で活動した「朝鮮通」議員のあり方の一例を提示することを目的とする。1910（明治43）年韓国併合により「朝鮮人」が「日本国民（帝国臣民）」に編入されることになり、また植民地化過程が進むにつれ多くの日本人が朝鮮に移住する事になった。『朝鮮総督府統計年報』によれば1910（明治43）年12月末を現在として、朝鮮在留日本人（以下在朝日本人と略す）は50,992戸、171,543名にのぼった。しかし、協力的朝鮮人は勿論、在朝日本人さえ本国の同じ帝国臣民でありながら参政権を持っていないため、自分の利益と関連した政策決定に参加する道が封鎖されていた。ようするに在朝日本人の場合、1913（大正2）年まで存在していた居留民団の解体により事実的「自治権」が剥奪された。よって1920年代以降の協力的朝鮮人を含む、植民地朝鮮では「封鎖された政治への参加」は一つの政治的課題として浮かび上がることになる。彼らは自分らの利益（権益）を実現させようと模索し始めるが、そのひとつの方法として、日本国内の縁故地で衆議院議員として出場し、「植民地政策決定過程」に介入することで、自らの利益を貫徹させようとした。これら、在朝日本人出身議員らは、政界で「朝鮮通」と称され、また他の「朝鮮通」議員らと共に積極的に議会活動を行うことになる。特に、日本国内では1920年代以降、政友会や憲政会などの政党が、藩閥・官僚勢力に対する政治的比重を次第に増大させ、また政治の民衆化をもとめる民衆運動が政治の動向に大きな影響力を持ち始めた。1918（大正7）年には寺内内閣が倒れ、総督の文官制を主張する原敬が首相になり、鉄道と教育機関の拡充を公約にし、政友会の党勢を拡張していった。一方、植民地朝鮮では1910（明治43）年の韓国併合から1919（大正8）年の3・1運動までは所謂武断統治期で、統治の主導であった陸軍による「政治的独立領域」の形成が目指されていたが、3・1運動以降は陸軍から政党勢力にその主導が変わり、原敬による「内地延長主義」政策が行われるようになる。その結果、総督の陸軍以外からの登用に見られるような統治政

策の非軍事化、「親日派」の育成及び「産米増殖計画」<sup>1</sup>による「受益者層」の創出、そして工業化のための日本資本の進出による雇用増大という事態が生まれ、積極政策が推進された。このような、内外の政治状況により、帝国議会における所謂「朝鮮通」も、「植民地政策決定過程」に積極的に介入し、「朝鮮スペシャリスト」<sup>2</sup>として、政界で活躍した。彼らは主に、植民地朝鮮からの陳情などの「ロビー活動」の「窓口」として、次第にその影響力を広めた。

本稿で取り上げる多木久米次郎は「肥料王」と称され、現在兵庫県加古川市所在の「多木化学株式会社（旧多木製肥所）」の創立者であり、日本で人工肥料を最初に手がけた人物である。また、植民地朝鮮で大規模な個人農場を経営し、植民地朝鮮を「新しい事業場」として、兵庫県朝鮮視察団を企画するなど、積極的に植民政策に取り組んだ。一方、政治家としては、帝国議会で「植民地参政権問題」や「産業統制問題」など、事業基盤との関連で、「植民地政策形成過程」にかかわりをもつようになるが、特に「参政権問題」では、朝鮮在住人（日本人・協力的朝鮮人）のみならず、日本国内における在日朝鮮人の参政権問題を取り上げている。そこで、当時「窓口」的役割を果たした「朝鮮通」議員の類型を、多木久米次郎の事業基盤及び参政権請願を検討から考察してみたいと思う。

## 1 多木久米次郎と朝鮮における事業基盤

### 1 多木久米次郎の経歴

多木家は播磨国加古郡別府港の豪農で、代々姫路藩の御用達役を務めた。久米次郎は父勝市（一）郎と母長子の間で3男として1859（安政6）年5月に生まれる<sup>3</sup>。多木勝市郎は農業の傍ら醤油醸造業に携り、久米次郎は1879（明治12）年に家督を継いだ。久米次郎が家督を継いだ1879（明治12）年の国内状況は、米価に比べ肥料の価格が非常に高く、農業経営は苦しい状況であった。特に加古地域は大洪水があり、農村経済は不安な時代でもあった。久米次郎の伝記『多木久米次郎』では、この時、久米次郎が農家の不景気を肥

1 「産米増殖計画」は、米騒動の勃発をきっかけに国内食糧供給の不安定さ、供給の不足という本国日本の事情と、朝鮮域内での民衆生活の安定のための農業振興という植民地政府（総督府）の意図とが合致したところで展開することになる。

2 「朝鮮スペシャリスト」とは、史料上用語である「朝鮮通」「朝鮮組」「朝鮮族」をすべて含めた用語である。しかし本稿では衆議院議員を対象としており、当時から議員によく使われた「朝鮮通」を用いる。

3 多木久米次郎伝記編纂会1958『多木久米次郎』p44、藤村友吉編1902『兵庫県代議士候補人物評論』明治35年7月、p23-2

料の関係にあると考え、低価額で効果の高い肥料を農家に提供することを検討し始めたと言われている<sup>4</sup>。

1885（明治18）年化学肥料製造を創始し、現在の兵庫県加古川に多木製肥所を設立、多木農工具、別府軽便鉄道各（株）社長となり、過磷酸製造業組合、日本肥料（株）、硫酸製造業組合、配合肥料製造組合各理事となる。その間、加古川郡会議員、同議長、兵庫県会議員、同参事会員、所得税調査委員長、県農会長となる。また朝鮮において農場及び山林を経営し、朝鮮農会顧問となる。当選は計6回（第10、12、14、15、17、18回総選挙）で、この後は貴族院（多額）議員になる。1942（昭和17）年3月15日死去した<sup>5</sup>。

## 2 植民地朝鮮の土地調査と視察団

多木久米次郎が最初に朝鮮に関心を持ったのは、1882（明治41）年欧州旅行の際、シベリヤ鉄道を利用し、満州・韓国を経て帰国した時である。

余は安東県より鴨緑江を渡りて韓国義州に入り、当初に視聴を驚かしたるものは北韓に於ける豊福なる森林なり。年々伐採する所八百万円の巨額に達し醋酸製造のみにして三百万円を超ゆると云ふ、而もその森林は無尽蔵と称せらる。惟り森林の富饒なるのみならず、無肥料と聞く田地五穀穰々たるものあり。果実は、梨、葡萄、林檎等我国に於ては到底見るげからざる良種を産し、氣候の良好なる米国種の大綿栽培にも適當す。若し施すに相当の肥培を以てせば今日に倍するの生産を見るは決して空望にあらざるべし。現に農事試験場設置せられ着々研究の歩を進めつつあり。近き将来に於て効果の認むべきものあるを疑はず<sup>6</sup>

韓国は土地、山林、鉱物など豊富な資源に恵まれ、将来性があるにもかかわらず、ほとんど開発されず、放置されていると回想した。また、朝鮮の地が農事経営の好適地であることを知り、肥料販売のためにも良き市場であることを感じたと言われている<sup>7</sup>。多木にとってこの旅行が朝鮮の事業的価値を認識し始めた契機となった。

4 多木久米次郎伝記編纂会 1958『多木久米次郎』p44

5 「衆議院議員名簿」衆議院、参議院編 1960『議会制度70年史』大蔵省印刷局 p282

6 多木久米次郎伝記編纂会、1958『多木久米次郎』p226 - 228

7 同上、p226 - 228

帰国後、1885（明治44）年には多木製肥所の平野房太郎を朝鮮に派遣し、土地調査に当たらせる。引き続き、1913（大正2）年に同所員上野元彦に命じ全羅北道地方の土地事情調査を行った。さらに1915（大正4）年に「兵庫県満韓観光旅行団」が企画されたとき、所員を旅行団に同伴させ、積極的に土地調査や市場調査に当たらせた。

また、多木は個人の事業調査だけではなく、兵庫県農会長時には、植民地朝鮮を「新しい事業場」として、朝鮮視察団を企画し、日本国内からの資本投資にも積極的に取り掛かった。多木が農会長の時に企画した、兵庫県農会主催の「第1回兵庫県農会朝鮮視察団」は、1915（大正4）年4月10日から25日まで、釜山、三浪津、大邱、水原、京城、仁川、進永、開城、平壤、群山、轟島などを視察した。視察団の目的は「朝鮮内地ニ於ケル、普通農事、畜産、林業、養蚕、移民及農産物輸出入状況ヲ視察セシム為メ」<sup>8</sup>とされ、国内の農業経済の不況を乗り越え、植民地に進出することを目的とした。

視察内容は、朝鮮の普通農事の経営・林業の経営・蚕業の経営・畜産業の経営・副業の経営・其他有望になる事業の経営などを視察した。視察団は視察後、視察報告をしているが、朝鮮の農業状況を畑は北地方、水田は南地方とし、これら殆どは「無肥料」で耕作をしているので、「良種の普及」「肥培法の改良」により、生産量増大の可能性が高く、「県下一般当業者ノ注意ヲ喚起シ、朝鮮ニ対スル農業経営ノ有利ナルニ着目スル者漸ク多ク、近来耕地並ニ山林ヲ購入シテ、事業ニ着手セル者アルガ如キハ本会ニ於ケル視察計画実行ノ効果トモ見ルコトヲ得バク成績ノ空シカラザリシハ欣幸トスル所ナリ」<sup>9</sup>とし、朝鮮を有望な事業場として認識した。

### 3 朝鮮での事業基盤

多木久米次郎の植民地朝鮮での事業は、農場以外にも鉱山や山林も経営していた。これら事業を如何なる過程として始め、その規模が如何なるものかを見てみたいと思う。

#### (1) 鉱山経営

【表1】は多木が経営した鉱山の一覧表である。当初は、4ヶ所の鉱山を手に入れ、経営しようとしたが、実際は2ヶ所に留まった。

多木が先ず最初に目を付けたのは、咸鏡南道端川郡所在のマグネサイト鉱山であった。この鉱山は当初総督府が1928（昭和3）年から4年間にかけての調査によって発見され、当時世界一の保有量を持つ鉱山であった。多木は1932（昭和7）年6月に社員白川隆彦

8 兵庫県農会 1916『第17回兵庫県農会年報』p37

9 同上、p39

を現地に派遣、調査させた。調査後白川が報告した内容は次のようである。

- 一、鉱床区間の一部に、六月十四日付で採取願一件がすでに出ている。
- 二、鉱床地区内の官有地の払下は不可能である。
- 三、マグネサイトは朝鮮鉱業法では鉱物の適用を受けていないから土砂採取願によって官有地は採取願を取得できる。また民有地は土地買収によってその権利が確保される。
- 四、地区内の富鉱地は民有地であって、その所有権は総督府嘱託本田理学士（元地質調査技師で鉱床の発見者）である。この土地は二万四千元で数人から買取したが、資金の一部は借入れし返済期は本年度九月に迫って来ている。本田はこの金に困っているから価格次第で譲渡に応ずる可能性がある。
- 五、鉱床付近に品位優秀の磁硫鉄の鉱床がある。<sup>10</sup>

調査後白河は同鉱山地域の所有者などの状況を多木に報告した。この報告を受けた多木は、同年7月6日に願書を総督府に提出したが、出願区域に保留鉱区である国有地と民有地の一部が含まれていることから、却下された。再度11月14日に採取願を提出したが、この間総督府は「朝鮮鉱業令改正」を施行し、またも却下された。これに多木は激怒し、総督府農林局長に抗議した<sup>11</sup>。しかし、結局、総督府は特殊法人会社を設立し、同鉱山の経営に当たった。

平安南道順川面元別里外三ヶ所にある「順川鉱山」は硫化鉱山で、1934（昭和9）年7月に、鎮南浦の日高龍馬から買取した。面積は900,500坪で購入価格は明らかではない。この鉱山は多木農場の主任土井に命じ調査に当たらせ、また1935（昭和10）年に総督府技師三沢正美に調査依頼をした<sup>12</sup>。「順川鉱山」の具体的な経営状況などは不明である。

江原道金化郡岐悟面の「金華鉱山」は、金・銀・硫化鉄鉱で、面積は57万坪、推定鉱量は100万トンとされ、最も優良な鉱山だとされている。この鉱山は多木と「日本鉱業株式会社」と競買となり、結果的に多木は購入できなかった<sup>13</sup>。

咸鏡南道端川郡南斗日面新豊里所在の「朝鮮燐鉱石鉱山」は、1938（昭和13）年に発見され、1940（昭和15）年に400万円の資本金で日本国内と朝鮮の化学肥料製造業者

10 多木久米次郎伝記編纂会 1958 『多木久米次郎』 p221 - 222

11 同上、p223

12 同上、p224

13 同上、p225

41 社が株主となり、この鉱山を経営する「朝鮮燐鉱株式会社」を設立し、多木も一株主として参加した<sup>14</sup>。

## (2) 多木農場の経営

【表2】は、全羅北道所在の30町歩以上の日本人地主名簿である。これからみると、個人経営の農場としては、多木（NO.137）は熊本利平（NO.104）を次ぐ2番目の規模である。また、多木久米次郎の婿養子である、多木衛三（NO.118）も若干の農事を経営している。多木農場の農地購入過程は、すでに述べたように、欧州旅行帰国の際から始まっていおり、【表3】は多木久米次郎が所有した農場状況である。

「万頃農場」は現在の全羅北道金堤市に位置し、農場規模は1181町4反3畝37歩で、1925（大正14）年を現在として農場経営状況は、投資金40万円、小作人は1273人、移民戸数は132戸である<sup>15</sup>。1916（大正5）年の兵庫県農会主催の「第2回朝鮮視察団」に所員平野房太郎を参加させ、視察団と共に、各地を視察した後、京城府本町山本旅館で農地購入の交渉に当たさせた<sup>16</sup>。【表3】に表すように、多木が交渉に当たった農地の旧所有者の中には、大韓帝国期に首相も勤め、現在では代表的な「売国者（親日派）」と評価される、李完用一族の土地も含まれている。この農地購入の時の状況が、多木が実家に送った手紙の内容に示されている。

朝鮮も21日着の日には92度位にして中々之早魃の様御座候。昨22日より俄然大雨沛然として降り官民ともに大喜に御座候。朝鮮之進歩も中々にして釜山に於ても海陸之連絡あり工場の勃興電鉄に水道に市区の改正港湾の改修等見るべきもの不少候。農業として肥培の少なきは最大欠点なるも密集的に植付候事感心候。春作は先宜しき方にして比較的内地よりも宜しく京城の面目も亦一新して中々の景気に御座候。今回山県（伊三郎）政務総監始め皆々中々親切に御座候。各局長各課長一寸招待候所皆々来会相成候。時下御自愛子供大切に被成下度候<sup>17</sup>。

とされ農地購入の際、総督府関係者から紹介若しくは斡旋があったと思われる。1917（大正6）年11月13日から牛尾寿郎を主任として本格的営業が始まる。農場経営の形態は、

14 同上、p226

15 同上、p281

16 同上、p229

17 同上、p231

大正期では、「小作契約」として、収穫の半分を取めることになり<sup>18</sup>、昭和期に入ってから、「小作契約」だけではなく、「耕作委託」という形式も持ち、これも基本的に半分を委託料として、農場側に取めた<sup>19</sup>。この他、耕牛の貸し出しや肥料販売も営んでいた<sup>20</sup>。

多木久米次郎は、このように本国事業の延長線として大規模な農場を経営した。

### (3) 山林経営

【表4】は多木が経営した「官有林貸付及び許可状況」であるが、1916（大正5）年に「朝鮮国有林貸付願」を総督府に提出し、翌年に「多木山林部」を設け経営が始まった<sup>21</sup>。しかしこれら山林は本格的な伐採をする前に、1942（昭和17）年に多木が死去し、1945（昭和20）年に敗戦となり、経営上利益を出したものではなかった。

## II 多木久米次郎と参政権問題

### 1 帝国議会と参政権要求運動

多木久米次郎は兵庫県農会・地元有志らの推薦で欧米旅行の際に出馬し、第10回総選挙において無所属で初当選した。第14回総選挙の際は、政友会に入党しその公認を受け出馬当選したが、その理由としては、従来の首相は有爵者の元老級であったが、原政友会総裁は「無爵の官僚臭のない平民宰相」であるとし、

原は、所信を処断してゆく実行力に富んでいる。すなわち大正7年9月大命を拝してから選挙権の拡張、高校、専門学校の増設、全国鉄道網の完成等相ついで所信を実現させた手腕を高く評価する。個人的に、主義政見の概ね相通ずるものがあり、不世出の偉人として畏敬した。<sup>22</sup>

常にそれまで「不党の立場」として、中立を標榜し無所属で出馬をしている多木としては原敬の「地域利益誘導型政治」に引かれ、「農事の振興」「地方文化開発」などの目的を達成するため入党を必要とした。また在朝日本人社会が本国政府に要望していた「朝鮮鉄道網」「教育機関拡充」などの政策を実現させようとする思惑と原の政策が一致し、政友

18 全州歴史博物館多木農場関連文書 大正「仮定祖小作契約証」 韓国全州歴史博物館所蔵

19 同上、昭和「耕作委託契約書」

20 同上、昭和「肥料借用証明書」「耕牛借用証書」

21 多木久米次郎伝記編纂会、1958『多木久米次郎』p246

22 同上、p326 - 327

会に入党したと思われる。

【表5】は、帝国議会衆議院本会議に提出された参政権要求に関する請願の一覧表である。この表を見れば、多木の自ら提出した請願を含め、日本国内からの参政権請願が総6件あり、その内、兵庫県4件（加古川の多木久米次郎・竹本作太郎、神戸の韓仁敬は2件）佐賀県1件（副島元市）出しており、最後には東京から1件（大西只雄）が提出している。

朝鮮からの請願した面々を見ると、当初は国民協会の関元植を中心として<sup>23</sup> 京城通信社長大垣丈夫やのちに朝鮮選出貴族議員となる金明濬（金田明）らなど所謂「有力者」が中心として提出されている。これら「有力者」が提出した請願の紹介議員は、牧山耕蔵・朴春琴・松山常次郎とした「朝鮮通」議員によって行われている。それに比べ、多木久米次郎が紹介議員となって提出した請願【表6】を見ると、日本国内からはすべて兵庫県からであり、朝鮮は全道に跨っている。請願者は、先述の「有力者」というより、幅広い階層、すなわち一般民衆からの提出が多い。これら請願者と多木との関係は史料上現在のところ分からないが、他の「朝鮮通」は「有力者」を中心とした「植民地的公共空間」からの利益要求を代弁する一種の「窓口」とした役割であり、多木の場合は、それ以外の「空間」からの「窓口」とした役割を果たしたのではないかと思う。

## 2 多木久米次郎と参政権付与構想

多木久米次郎は、1930（昭和5）年に実施された第17回衆議院選挙の時、「朝鮮に漸次参政権を認め併せて徴兵を施行する事を期す」<sup>24</sup>として、参政権付与と植民地徴兵制実施を選挙公約として掲げ、積極的に参政権問題に関わっていた。

多木の参政権問題を含む、植民地統治観は、自ら請願者となり提出した、「朝鮮に対する参政権実施に関する請願書」<sup>25</sup>（紹介議員井上孝哉）によく示されている。

第56回帝国議会衆議院本会議（通常、1928年）に提出されたこの請願書には、植民地朝鮮の政治的地位を「一視同仁」により、朝鮮は所謂植民地ではなく、日本帝国の一部（一地方）とみなし、朝鮮人を「帝国の臣民」としている<sup>26</sup>。朝鮮統治政策に関しては、当時内外的に様々な議論を起こした拓植省設置と関連して「朝鮮をも植民地と称するが如きは

23 国民協会の参政権要求運動に関しては、松田利彦「植民地期朝鮮における参政権要求運動団体「国民協会」について」浅野豊美・松田利彦編 2004『植民地帝国日本の法的構造』、信山社を参照せよ。

24 多木久米次郎伝記編纂会 1958『多木久米次郎』p315

25 アジア歴史資料センター（RefC04016949100）1929「海軍省公文備考第3巻」（防衛省防衛研究所）

26 同上、RefC04016949100、第1番目画像

朝鮮人の最も喜ばざる処にして又最も不愉快を感ずるの名称」<sup>27</sup>とし、設置自体には反対をしないが、朝鮮を植民地扱いするには反対な立場を取った。また事業との関連で「関税を徴収して以て朝鮮を他国視するが如きは之亦遺憾千万に有之」<sup>28</sup>と植民地と本国の関税撤廃を主張した。

また、この請願書には、当時在日朝鮮人の参政権問題も取り上げられている。在日朝鮮人の参政権付与が最初に議論されたのは、1918（大正7）年の第40回帝国議会衆議院本会議で「共通法案<sup>29</sup>」（政府提出）である。

第三條 一ノ地域ノ法令ニ依リ家ヲ去ルコトヲ得サル者ハ他ノ地域ノ家ヲ去ル  
一ノ地域ノ法令ニ依リ家ヲ去ルコトヲ得サル者ハ他ノ地域ノ家ニ入ルコト  
ヲ得ス  
陸海軍ノ兵籍ニ在ラサル者及兵役ニ服スル義務ナキニ至リタル者ニ非サレ  
ハ他ノ地域ノ家ニ入ルコトヲ得ス但シ徴兵終決處分ヲ經テ第二國民兵役ニ  
在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

政府提出の「共通法案」の中で、この第三条が「朝鮮通」議員らに問題提起された。特に牧山耕蔵は

「内地人ノ家ニ入りマシテ、内地ニ居住ヲ致シマシテ、相當ノ公課ヲ納メ、詰り税金ヲ納メ、一定ノ年限ヲ經マスレバ、公民権ヲ取得スルコトガ出来ルト相成ルノデアリマスカ、朝鮮ニ若クハ台湾ニ於テハ、現在ニ於テ参政権ヲ與ヘラレル権利モ発生スル

27 同上、RefC04016949100、第2番目画像

28 同上、RefC04016949100、第4番目画像

29 共通法とは、民事・刑事に関し日本本国と植民地という「異法地域の連絡統一を図り法律秩序の調和的適用範囲の確定を目的」として「準拋法の確定」や「事案の実質法的解決」を行おうとするものだった。すなわち、当時の朝鮮・台湾等の日本植民地は、明治憲法を頂点とする本国の諸法令とは異なる法域を形成していたが、両者の間の法的な相互連絡を円滑化しようとするのが「共通法」案だった。同法案は、朝鮮併合以来、拓殖局、次いで内閣附属の共通法規調査委員会で検討が進められていたが、1917（大正6）年ようやく成案を得て、翌年政府法律案として議会で提出された。全19ヶ条の比較的短い法案であり、貴族院の共通法案特別委員会に付託された後、衆議院の同委員会に回付、1918（大正7）年末に成立を見ることになる。政府原案に対しては貴族院で若干の字句が修正されたにすぎないが、その審議過程においては植民地支配を規定する法的秩序をめぐる様々な問題が提起された（春山明哲・若林正丈 1980『日本植民地の政治的展開 1895 - 1934 - その統治体制と台湾の民族運動一』東京大学出版会、p 19）。

コトデアラウト思フノデアリマス（中略）本法が實施サレル當然ノ結果トシテ、朝鮮人ノ子供ナリ、台湾人ノ子供ナリガ、内地人ノ家ニ入りマシタ場合ニ於テハ、徴兵適齡ニ當リマスレバ、徴兵令ノ適用ヲ受ケテ、兵役ニ服スルノ義務ヲ生ズルノデアリマセウカ、是ハ将来ニ於テ餘程種々ノ問題ガ起ツテ来ルト思ヒマス（中略）反対ノ側即チ朝鮮人ナリ台湾人ナリガ、内地人ノ家ニ入りマス場合ニハ、如何ナルコトニ相成リマスカ」<sup>30</sup>

「家ニ入ル」とは通婚や養子による入籍でありそれで牧山耕蔵は、もし朝鮮人が内地の戸籍に入り、公民権を持つと参政権も自然に伴ってくるのではないかと政府側に質問をし、続けてこの法案が実施された結果として起こるべき問題として、在日朝鮮人（台湾人を含む）に選挙権があるかを問うが、政府側は「既ニ新附民ト相成リマシタ以上ハ、成ルベク同一ノ待遇ヲ致シタイト云フノガ大体ノ方針デ御座イマス」<sup>31</sup>と答え、牧山は共通法の表面のみの解釈だと批判した。

このように牧山耕蔵ら「朝鮮通」と政府は在日朝鮮人参政権付与には消極的であった<sup>32</sup>のに対し多木はこの請願書で、在日朝鮮人は「帝国臣民」として意識が高く、年々渡航者の増加しているので、居住1年以上のものには付与すべきだと述べている<sup>33</sup>。

植民地朝鮮の参政権施行方法案として「朝鮮も北海道或は琉球の例に如く先づ以て各都市々々に於て代議士を出さしめ然る後漸次参政権的に内地同様参政権を一般に及ぼすの方策は最も緊要事して」<sup>34</sup>とし、牧山ら他の在朝日本人出身の「朝鮮通」議員と同様、北海道・沖縄をモデルとして、大都市から順序に与える方法を取りべきと主張した。これは協力的朝鮮人は「政治問題」に関心が高く、憲法上により付与される参政権を与えることにより「統治の安定」を図るものとしての主張でもあった。

最後に「我為政者の朝鮮を見る誠に冷淡なるが如き感あるは為国家甚だ遺憾とす」<sup>35</sup>とし、本国の閣僚の中で20年間に2人しか朝鮮にきていないことを批判した。

30 「1918年3月1日第40回本会議」衆議院1980『帝国議會衆議院議事速記録』東京大学出版会 p 313-314

31 同上、p 315

32 松田利彦1995『戦前期の在日朝鮮人と参政権』明石書店 p 21

33 アジア歴史資料センター(RefC04016949100)1929「海軍省公文備考第3巻」(防衛省防衛研究所)第2番目画像

34 同上、RefC04016949100、第2番目画像

35 同上、RefC04016949100、第3番目画像

## おわりに

以上のように、多木久米次郎の事業基盤と議会活動を分析することで、従来研究されていなかった、植民地政策決定過程における「朝鮮通」の類型を見てみた。

従来の植民地関連研究の主な傾向は、「支配」と「抵抗」という枠組みでなされてきた。最近では「協力」という側面も強調され、植民地をめぐる「政治空間」を論じられてきている。しかし、この場合も「支配者としての日本」と「被支配者としての朝鮮」という枠組み自体は変わっていない。これに伴い、当時の植民地政策形成過程の研究が遅れ、また政策形成過程に影響を与えた勢力、若しくはその個々人の研究も遅れている<sup>36</sup>。こうした先行研究の現状に対して、植民地政策形成過程にまで踏み込んだ考察を行うには、政党の植民地政策に深く関わる「朝鮮関係議員」や、「朝鮮関連団体」である、所謂「朝鮮通」についての研究がどうしても必要になる。

多木は日本人の中でも、日本国内からの農業移民・朝鮮農業に関心が高く、兵庫県農会長の際、朝鮮視察団を企画するなど植民地朝鮮を「新しい事業場」として認識し、殖民政策を積極的に取り組んだ。参政権請願は当時朝鮮のみならず日本国内からも、植民地参政権要求が出され、帝国議会への請願することに、封鎖された政治への参加が試みられた。この動きに「窓口」として活躍したのが、当時「朝鮮通」と称された議員であるが、多木の場合は、朝鮮在住の「有力者」を中心ではなく、植民地・本国の一般民衆からの「窓口」として活躍した。これが多木久米次郎の「朝鮮通」としての特徴とも言えるのではないかと思われる。このような傾向は、事業基盤若しくは生活基盤が朝鮮半島に限られておらず、植民地と本国にその基盤を持っているからである。ゆえに、植民地と本国の壁をなくし、植民地政策決定過程に彼らの利益を代弁することで、「内地領土の延長（内地延長主義）」を実践しようとした。

今後は、当時の兵庫県における参政権要求運動や多木久米次郎の建議案などから「朝鮮通」議員の類型を一層深くしていきたい。

## 参考文献

浅野豊美・松田利彦編 2004『植民地帝国日本の法的構造』信山社

36 水野直樹 2002「植民地支配政策史研究の現状と課題」『世界の日本研究 2002- 日本統治下の朝鮮：研究の現状と課題 -』国際日本研究文化センター p 60

- 「衆議院議員名簿」衆議院，参議院編 1960『議会制度 70 年史』大蔵省印刷局
- 衆議院 1980『帝国議会衆議院議事速記録』東京大学出版会
- 全州歴史博物館 2005『所蔵遺物図録』全州歴史博物館
- 多木久米次郎伝記編纂会 1958『多木久米次郎』
- 多木化学 100 年史編纂委員会 1985『多木化学 100 年史』
- 松田利彦 1995『戦前期の在日朝鮮人と参政権』明石書店
- 春山明哲・若林正丈編 1980『日本植民地の政治的展開 1895 - 1934 - その統治体制  
と台湾の民族運動一』東京大学出版会
- 田中宏 1974「日本の植民地支配下における国籍関係の経緯」『愛知県立大学外国語学部  
紀要』9 号
- アジア歴史資料センター (RefC04016949100) 1929「海軍省公文備考第 3 卷」(防衛省  
防衛研究所)
- 韓国統監府農商工務部 1906『韓国ニ於ケル農業ノ経営』
- 衆議院各会期『衆議院請願文書表』及び『同報告書』(国会図書館所蔵)
- 全羅北道農村振興課 1939『全羅北道大地主調』「日本人・朝鮮人地主名簿」滋賀県立大  
学朴文庫所蔵
- 全州歴史博物館多木農場関連文書大正「仮定祖小作契約証」、昭和「耕作委託契約書」  
「肥料借用証明書」昭和「耕牛借用証書」韓国全州歴史博物館所蔵
- 兵庫県農会 1916『第 17 回兵庫県農会年報』
- 吉浦龍太郎 1918『征虎記』

表1 多木経営鉱山

所在地（買取当時）	面積（坪）	鉱種	鉱山名	買取		前鉱業権者	備考
				年月	価格（円）		
平安南道順川郡順川面元別里他3ヶ所	900,500	硫化鉱				日高龍馬	
咸鏡南道端川郡南斗日面		燐 砒 石、 燐灰石	朝鮮燐砒	昭 和 15 年			資本金400万円、 化学肥料製造業社 41社株主

多木久米次郎伝記編纂会 1958『多木久米次郎』、多木化学 100 年史編纂委員会 1985『多木化学百年史』引用

表2 全羅北道日本人経営農場状況

	地主又は農場	経営主務者	事務所所在地	土地の所在	経営面積			摘要
					畝	田	計	
1	西田重作	自 営	本町	益山	31,6		31,6	
2	渡邊仙藏	同	全州通	沃溝	31,5		31,5	
3	民家繁次	同	昭和通	同	31,4		31,4	
4	松本次八	同	榮町	同	28,4	4,8	33,2	
5	佐藤慶治	同	新興町	沃溝、扶安、扶餘	28,5	2,5	40,0	
6	弘田修二	同	明治町	沃溝	24,2	15,4	39,4	
7	廣津吉三郎	同	全州通	沃溝、舒川	42,8	,9	43,7	
8	民家三治郎	同	田町	沃溝	69,7	1,6	71,3	
9	山本一男	同	千代田町	益山、金堤、論山	71,1	12,4	83,5	
10	藤元政繁	同	榮町	沃溝	53,8	2,3	56,1	
11	藤田義平	同	新興町	同	44,9	6,4	51,6	
12	松場密三郎	同	本町	扶安、非邑、沃溝、益山、 金堤、鎮安	50,3	12,3	62,6	
13	浅野吉太郎	自 営	元町	沃溝、南原	61,9	2,0	63,9	
14	花岡鶴松	同	本町	沃溝、金堤、益山、完州、 論山	126,1	4,0	130,1	
15	細井専太郎	同	大正町	鎮安、長水	66,0	9,0	75,0	
16	久保田産業株式会社	久保田彌助	同	完州、金堤、南原、長水、 鎮安、任實	280,0	49,0	329,0	
17	筑紫農園	高平源六	高砂町	完州	133,0	43,5	176,6	
18	小林宗十郎	自 営	参禮面参禮里	完州、益山	25,1	9,0	34,1	
19	東山農事株式会社朝鮮支店全北出張所	守田壇	助付面半月里	完州	1,290,9	194,6	1,485,5	肥料農資貸付ス
20	伊藤長合資会社朝鮮農場	小林宗十郎	参禮面参禮里	完州	427,4	40,9	468,3	肥料農資貸付ス
21	二葉社朝鮮出張所	齊藤信一	参禮面後亭里	完州、益山、沃溝	1,023,0	186,0	1,209,0	
22	阪本弘	自 営	錦山面上里	錦山	35,0	14,0	49,0	
23	阪本肇	同	同	同	70,0	20,0	90,0	
24	岡本啓遺	同	同	同	34,0	18,0	52,0	
25	森井三郎	同	同 中島里	同	38,0	17,0	55,0	
26	阪本宗十郎	同	同 上里	同	196,4	90,1	286,5	肥料農資貸付ス
27	寺井政次郎	同	同 中島里	同	162,1	61,9	224,0	
28	五十嵐市十郎	同	同	同	78,0	31,0	109,0	肥料農資ス
29	薄非誠	自 営	茂朱面邑内里	長水、鎮安、茂朱、永 同	26,7	6,4	33,1	
30	内山モト	中山政吉	茂豊面懸内里	茂朱、	24,0	10,7	34,7	
31	古瀬庄作	自 営	茂朱面邑内里	長水、鎮安、錦山、茂朱、 永同	52,1	16,6	68,7	
32	新美丈輔	同	同	茂朱、居昌	26,8	56,2	83,0	
33	松尾亀吉	同	溪内面長溪里	長水	36,5	7,3	43,8	
34	高田末郎	柳鍾綯	同	同	28,9	11,9	40,8	
35	田中英憲	自 営	長水面長水里	同	37,9	11,9	49,8	
36	衣斐畔作	同	長水面長水里	同	40,5	11,9	52,4	
37	近藤善太郎	同	館村面館村里	任實	20,7	30,6	51,3	
38	諏訪善夫	同	南原邑下井里	南原、長水	66,2	14,0	70,2	
39	細野元助	同	南原邑東忠里	南原	183,8	13,8	197,6	
40	辻護一郎	同	同 雙橋里	南原、長水	184,1	24,8	208,9	
41	宮尾博次	同	同 竹卷里	南原	92,6	10,5	103,1	肥料農資ス

42	迫間房太郎	鄭在麟	同	同	127,5	5,2	132,7	
43	山本判十郎	自 営	淳昌面淳化里	淳昌	11,0	20,0	31,0	
44	山本賢治	同	淳昌面淳化里	同	45,0	23,0	68,0	
45	山福浅次郎	同	同	同	72,0	31,0	103,0	
46	小川小博二	同	井州邑上 里	井邑	26,4	7,6	34,0	
47	吉村儀光	同	同 水城里	同	28,6	3,2	31,8	
48	木村信治郎	同	同 水城里	同	26,8	6,6	33,4	
49	箕浦留吉	同	同 市星里	同	23,8	12,9	36,7	
50	松本農場	鎌田周吉	同 水城里	同	45,6	4,3	49,9	
51	芹澤米次郎	自 営	笠岩面新井里	同	10,6	27,7	38,3	
52	荒木幸太郎	同	笠岩面川原里	同	24,6	6,5	31,1	
53	松尾保藏	同	永元面鶯成里	同	38,3	8,3	46,6	
54	森分藤太郎	同	新泰仁面新泰仁里	同	27,9	5,9	33,8	
55	鶴飼源造	同	井州邑蓮池里	同	56,5	6,0	62,5	
56	岡枝實治	同	新泰仁面九石里	同	62,2	23,4	85,6	
57	西村三男	同	新泰仁面	扶安	148,4	14,9	163,3	
58	赤木峯太郎	同	同 九石里	井邑	545,8	99,3	645,1	
59	田植太郎	同	同 禾湖里	同	208,0	17,0	225,0	
60	岳南農事合資会社	井深和一郎	笠岩面下富里	同	35,0	70,0	105,0	肥料農資ス
61	富民協會	西村萬次郎	新泰仁面九石里	同	226,2	54,2	280,4	肥料農資貸付ス
62	伊藤品平	自 営	茂長面城内里	高敵	73,0	19,0	92,0	肥料農資ス
63	岡田権一	同	同	同	53,0	7,0	60,0	
64	木村農場	木村健夫	高敵面邑内里	同	249,0	13,0	262,0	
65	川野弘済	自營	扶寧面西外里	扶安	32,0	10,0	42,0	
66	川野澄生	宮本正盈	同面東中里	同	30,6	2,7	33,3	
67	園部常吉	自營	○浦面大東里	同	15,0	30,0	45,0	
68	大森誠一	同	白山面徳新里	同	25,0	5,8	40,8	
69	岡田恵島	同	扶寧面東外里	同	61,8	17,0	78,8	肥料貸付ス
70	鈴木仁三郎	同	東津面下長面	同	89,8	6,4	96,2	肥料農資貸付ス
71	前田恒太郎	同	白山面平橋里	同	75,0	15,0	90,0	
72	川野長久	同	扶寧面東中里	同	167,0	37,2	204,2	
73	三宅浦之助	同	同	同	185,0	17,1	202,1	
74	合資会社賀田農場	大野惣一郎	上西面甘橋里	同	23,6	136,0	159,6	
75	星形義誼	自營	月村面蓮井里	金堤	43,0	4,0	47,0	
76	木村重作	同	同福竹里	同	29,0	5,0	34,0	
77	大隈悦蔵	同	白鷗面月鳳里	同	40,0	1,0	41,0	
78	松村銀植	同	万頃面火浦里	同	42,0	1,0	43,0	
79	森岩蔵	同	金山面双龍里	同	19,0	16,0	35,0	
80	東津水利組合	長富彌作	金頃邑堯村里	金堤、任実	68,3	12,0	80,3	
81	日野喜助	自營	同新豊里	同	53,0	6,0	59,0	
82	西村繁次郎	同	同堯村里	同	51,0	1,0	52,0	
83	島本市平	同	白鷗面柳江里	同	46,0	7,0	53,0	
84	山田嘉一郎	同	金頃邑新豊里	同	122,0	5,0	127,0	
85	横手農場	中務潔	同	金堤、井邑	156,0	15,0	171,0	肥料農資貸付ス
86	平富栄一	自營	同堯村里	金堤	89,0	16,0	105,0	
87	井上農場	横田直介	白鷗面半月里	同	81,0	20,0	101,0	
88	佐伯農場	佐伯芳吉	同麻山里	同	79,0	33,0	112,0	
89	中紫産業株式会社	中野宗三郎	青蝦面東島里	同	670,0	136,0	806,0	肥料農資貸付ス
90	阿部農場	川崎留次郎	金頃邑堯村里	金堤、井邑、扶安	743,4	76,5	819,9	同
91	榊富農場	榊富太郎	月村面月鳳里	金堤、井邑	355,0	25,8	380,8	同
92	石川東農業株式会社	熊野三次	金堤邑新豊里	金堤、井邑、扶安	1,662,5	97,7	1,760,2	同
93	橋本農場	橋本巽	竹山面竹山里	金堤	270,0	10,0	280,0	
94	東津農業株式会社	古川不可止	進鳳面玉浦里	同	1,600,0	24,0	1,624,0	同
95	江藤作治	自營	開井面○岩里	沃溝	30,5	,4	30,9	
96	松原駒吉	同	沃溝面上坪里	同	39,0	1,0	40,0	
97	徳永信一	同	玉山面堂北里	同	46,2	2,3	48,5	農糧貸付ス
98	池田義亮	同	臨陂面戌山里	同	54,0	1,8	55,8	農資貸付ス
99	清池農場	広津菊一	聖山面高峰里	同	56,1	1,1	57,2	同
100	大園十助	自營	大野面山月里	同、金堤	71,0	2,4	73,4	
101	甲斐三二	同	同蝶山里	同	86,6	,6	87,2	

102	片山農場	片山久太郎	開井面雲会里	同	47,0	5,4	52,4	
103	島谷農場	島谷篤	同鉢山里	同	1,534,5	208,2	1,742,7	肥料農資貸付ス
104	熊本農場 (熊本利平)	紫山鼎	同開井里	沃溝、金堤、井邑、益山、扶安	2,907,5	92,9	3,000,4	同
105	金子農場	金子孫佐久	玉山面堂北里	沃溝	185,0	,4	185,4	農資貸付ス
106	宮崎農場	宮崎保一	米面京場里	沃溝、益山、舒川	709,8	4,2	714,0	肥料農資貸付ス
107	香川農場	清水謙助	○県面月淵里	沃溝	100,0		100,0	同
108	森谷農場	森谷徹雄	瑞穂面新基里	沃溝、益山	194,3	48,8	243,1	同
109	大成農場	原田彦四郎	○県面院隅里	沃溝	464,0	2,0	466,0	肥料貸付ス
110	八木農場	大鍛林之助	大野面地境里	同	846,2	5,9	852,1	肥料農資貸付ス
111	槇農場	槇瀧太郎	瑞穂面新基里	沃溝、益山	73,5	27,8	101,3	同
112	森菊農場	森菊五郎	玉山面堂北里	益山、金堤、沃溝、舒川	470,6	26,4	467,0	農資貸付ス
113	永淵嘉六	永淵嘉六	裡里邑	益山	102,9	17,6	120,5	
114	藤原磐松	自営	同	高敞	38,4	,9	39,3	
115	安本好助	同	同	益山、金堤	40,6	6,0	46,6	
116	水落清一郎	同	五山面新池里	益山	30,1	,3	30,4	
117	今瀬フサ	同	竜安面梭洞里	同	34,1	5,1	39,2	
118	多木衛三	同	咸悅面瓦里	井邑	30,0		30,0	
119	三枝守又	同	裡里邑	益山、井邑	65,0	9,2	74,2	
120	全北商事株式会社	大木房男	洞	益山、金堤、沃溝、論山	66,6	4,7	71,3	
121	坂本登	自営	黄堂面栗林里	益山	33,7	18,0	51,7	
122	関農場	関寛一郎	咸羅面咸悅里	同	52,1	43,8	95,9	
123	田中善市	自営	咸悅面瓦里	同	57,0	4,2	61,3	
124	西岡愛男	福島梅太郎	金馬面東古都里	同	66,2	26,7	92,9	
125	今村農場	今村一次郎	春浦面大場村里	益山、金堤、完州	62,8	10,7	73,5	
126	田坂佐三郎	自営	同	同	84,3	13,6	97,9	
127	右近商事株式会社 朝鮮出張所	森山治郎平	裡里邑	益山、完州、金堤、扶余、青陽	2,287,6	120,2	2,407,8	肥料農資貸付ス
128	真田農事合名会社	真田常治	五山面松鶴里	益山、沃溝	387,4	54,6	442,0	同
129	坂井信蔵	自営	裡里邑	益山、金堤、沃溝、完州、論山	81,0	55,0	136,0	肥料貸付ス
130	三重農場	磯部又次郎	同	益山、沃溝、扶安、金堤、完州	563,9	121,4	685,3	肥料農資貸付ス
131	大橋農場	大橋與市	同	益山、金堤	967,0	129,0	1,096,0	同
132	全北産業株式会社	松村松一	同	益山、沃溝、井邑	108,6	15,3	123,9	肥料貸付ス
133	富農場	李源鎔	同	益山、沃溝、扶安、金堤	130,0	167,0	297,0	同
134	東洋拓殖会社 裡里支店	弘田義助	同	長水、鎮安、扶安、益山、金堤、井邑、完州、高敞、南原、任実、沃溝	6,563,9	526,3	7,090,2	同
135	不二興業株式会社 全北農場	山崎要助	五山面五山里	沃溝、高敞、益山、完州、金堤、扶安、井邑	2,496,9	194,2	2,691,1	肥料農資貸付ス
136	片桐農場	片桐和三	黄堂面黄堂里	益山、沃溝	62,3	45,4	107,7	肥料貸付ス
137	多木農場	多木久米次郎	咸悅面瓦里	益山、金堤、扶安、井邑	2,519,0	28,0	2,547,0	肥料農資貸付ス
138	侯爵細川家朝鮮農場	吉武定夫	春浦面大場村	益山	1,265,8	110,5	1,376,3	肥料貸付ス

全羅北道農村振興課 1939 「日本人・朝鮮人地主名簿」 『全羅北道大地主調』 (滋賀県立大学朴文庫所蔵) から作成

表3 多木農場の規模及び所在地

購入年月	土地面積	所在地	旧所有者	購入代金(円)	農場名
大正6年11月	570町2反3畝 25歩	全羅北道金堤郡進鳳面、 聖徳面、万頃面	李明九	105,000	万頃農場(最初金堤農場)
同7年6月	71町2反12歩	全羅北道金堤郡竹山面 大倉里	李完用	18,000	同上
同7年7月	540町	全羅進鳳面、聖徳面、 方頃面	山本唯三郎	170,000	同上
同8年	184町	全羅益山郡望城面華山 里、龍安面九山里	村岡角輔	141,000	咸悦農場(江景農場)
同8年	73町7反	全羅井邑郡古阜面、所 声面、永元面	北尾栄太郎、北尾孝信		古阜農場
同9年	442町	全羅益山郡咸悦面瓦里	光岡正行	810,000	咸悦農場
昭和6年	506町	忠清南道扶余郡窺岩面 その他数面	金顕甲他4名		扶余農場
計	2387町1反4畝 7歩				

多木久米次郎伝記編纂会 1958『多木久米次郎』、多木化学100年史編纂委員会 1985『多木化学百年史』引用

表4 官有林貸付願及び許可状況

出願年月	官有林所在地	許可面積	許可年月
大正5年11月	忠清北道永同郡	2080町	大正7年5月
大正5年12月大正6年12月	慶尚北道盈徳郡	10,136	大正7年8月
大正7年3月	京畿道抱川郡	1,398(含買収地)	大正7年4月
合計		13,616町4反	

同上、引用

表5 参政権請願一覧表

議会	提出日	文書番号	件名	請願者	紹介議員
42 通常	19200205	902	衆院選挙法ヲ朝鮮ニ施行ノ件	閔元植外105名	斉藤珪次外2名
43 特別	19200708	144	同上	同上外613名	牧山耕蔵外1名
44 通常	19210215	1982	同上	同上外3226名	大岡育造外16名
45 通常	19220306	1540	朝鮮統治ノ件	鄭薫謨外42名	副島義一
52 通常	19270219	519	朝鮮在住者ニ対スル参政権付与ニ関スル件	京城大垣丈夫外56名	松山常次郎
56 通常	19290225	631	朝鮮ニ参政権実施ニ関スル件	多木久米次郎	井上孝哉
58 特別	19300423 - 0506	13 - 461 (9 件)	朝鮮ニ参政権実施其ノ他経綸ニ関スル件	朴根碩外370名(9件の 合計)	多木久米次郎
59 通常	19310221 - 0319	697 - 1590 (152件)	同上	竹本作次郎外775名(152 件の合計)	多木久米次郎
62 臨時	19320601	10	同上	趙在旭外4名	多木久米次郎
	19320609	667	朝鮮ニ参政権実施ノ件	神戸韓仁敬外100名	中玄歳男
63 臨時	19320825	430	朝鮮ニ参政権実施其ノ他経綸ニ関スル件	李廷春外6名	多木久米次郎
64 通常	19330127 - 0201	347 - 457 (3 件)	同上	副島元市外10名(3件合 計)	多木久米次郎
	19330207	742	朝鮮ニ衆院選挙法施行ノ件	金明溶外724名	朴春琴
	19330316	2024	朝鮮ニ参政権実施其ノ他経綸ニ関スル件	忠清南道広瀬健次郎外724 名	多木久米次郎
67 通常	19350209	689	朝鮮ニ参政権実施ノ件	神戸韓仁敬外102名	朴春琴
	19350223	2310	同上	金明溶外1214名	朴春琴
70 通常	19370225	402	朝鮮ニ衆院選挙法施行ノ件	同上24.625名	守屋栄夫
73 通常	19380219	497	同上	同上外28名	朴春琴
74 通常	19390213	240	同上	同上外41名	朴春琴外1名
75 通常	19400309	960	同上	全福一外56名	朴春琴外8名
76 通常	19410218	397	同上	金田明外68名	守屋栄夫外1名
79 通常	19420214	393	同上	京城高島基外35名	朴春琴
84 通常	19440315	369	朝鮮・台湾ニ衆院選挙法施行ノ為ノ調査促進ノ請願	大西只雄	坂東幸太郎

田中宏「日本の植民地支配下における国籍関係の経緯」1974『愛知県立大学外国語学部紀要』9号、p72 - 73 再引用  
 原資料衆議院各会期『衆議院請願文書表』及び『同報告書』国会図書館所蔵



58	428	19300505	朝鮮ニ参政権実 施其ノ他經綸ニ 関スル件	同上第 13 号	朝鮮江原道春川 郡史内面史倉里 七百五十六番地 農鄭泰永 外 4 名		
58	461	19300506	同上	同上第 13 号	朝鮮黃海道海州 郡壯谷面竹川里 三百三十六番地 農趙政熙 外 4 名		
59	697	19310221	朝鮮ニ参政権実 施其ノ他經綸ニ 関スル件	本請願ヲ要旨ハ朝鮮ハ我西北ノ鎖鑰一 ニシテルヲ以テスハ百ノ政權ヲシク舊態ヲハ最 ニ必要ナリトヨリ信テ先ツ文化漸次朝鮮念成 ル共適当ニ朝鮮内閣ヲ改列セシラメレ ク尙思想軍事其ノ他官制經濟ニシテ謂フニ 施設經綸ヲ行ハレ		兵庫東加古郡天 滿村大字竹本 作太郎 外 52 名	
59	880	19310302	同上	同上第 697 号	朝鮮全羅南道宝 城郡筏橋面筏橋 里五百九十四番 地商橋本松太郎 外 9 名		
59	955	19310305	同上	同上第 697 号	朝鮮黃海道殷栗 郡長連面西部里 二百二十四番地 農林箕祚 外 4 名		
59	976	19310305	同上	同上第 697 号	朝鮮京畿道水原 郡安龍面安寧里 三十七番地官吏 金南韶 外 4 名		
59	977	19310305	同上	同上第 697 号	朝鮮京畿道水原 郡安龍面大皇橋 里百四十三番地 公吏李重燮 外 4 名		
59	992	19310307	同上	同上第 697 号	朝鮮忠清南道礼 山郡礼山面舟橋 里二百二十四番 地商成觀永 外 4 名		
59	1019	19310309	同上	同上第 697 号	朝鮮咸鏡南道三 水郡昌館面城内 里九番地官吏 朴英三 外 4 名		
59	1023	19310309	同上	同上第 697 号	朝鮮忠清南道大 田郡大田面西町 五十五番地農浦 岡寿三郎 外 4 名		
59	1070	19310311	同上	同上第 697 号	朝鮮平安北道楚 山郡東面龜龍洞 六十七番地農崔 賢曾 外 14 名		
59	1080	19300311	同上	同上第 697 号	朝鮮慶尚南道咸 陽郡水東面牛鳴 里八百十五番地 農鄭玉相 外 5 名		
59	1103	19310312	朝鮮鳥到院全州 間鐵道敷設ノ件	本請願ヲ要旨ハ朝鮮忠清南道及全羅北道 ノ古來朝鮮ノ宝庫ト稱セラレ全鮮ニ恵 一ノ米産地ニシテ人口亦交通機關ニ在 マレ又忠清南道公州ハ道庁ノ所ニ在 ナニ対スル行政上ノ運用ヲ全線致 ハリ公州ヲ経テ全州ニ達スル鐵道 シ地方産業ノ開發及物資輸出入ノ便 シラレタシト謂フニ在リ	朝鮮忠清南道論 山郡江景面中町 六十七番地公吏 坂上富藏 外 16 名		

